



グラウンド。200mトラックと100m直線コースが設けられる。
左の建物は西棟、右側は南棟

100周年
記念事業

2006年、 中高新校舎が 完成

新・星が丘キャンパス



新・星が丘キャンパス中高ゾーンの模型。
左の校舎が西棟、右側が南棟。
グラウンドの下部には
事務室や駐輪場などが設けられる



1905年(明治38年)に創立された愛知淑徳学園は、
来年2005年に創立100周年を迎えます。
その記念事業である星が丘キャンパスのリニューアルは
一昨年からスタートし、今年1月には大学新棟が完成。
6月からは中学・高等学校ゾーンの工事が始まり、
2006年の新校舎完成を目指して着々と進んでいます。
全ての施設が完成して、新生星が丘キャンパスが
誕生するのは2007年2月となります。

現在の星が丘に愛知淑徳高等学校・
中学校の校舎が建つたのは1959年
(昭和34年)。当初は、東洋一の素晴ら
しい校舎」と賞賛された校舎も45年
を経ていささか老朽化し、耐震構造
の面からも建て替えの必要が出てき
ました。

そこで2005年に学園創立100
周年を迎えるのを期に、星が丘キャン
パスの全面的なリニューアルを計画。
既存の校舎をほとんどを建て替える
というビッグプロジェクトが開始しま
した。すでに昨年からの工事に入って
おり、今年1月には大学新棟が竣工
しています。

大学ゾーンの工事も平行して中学・
高校ゾーンの工事も一部始まっており、
今年春に完成した正門とそこから校
舎へとつながるアプローチは、新しい表
情を見せています。

**中高の新校舎は
F字型に並ぶ3棟**

新・星が丘キャンパスは西側を大学
エリア、東側を中学・高校エリアと明
確に区分します。そのためグラウンド
を現在の同窓会館のある東側に移転
し、その北側に新校舎が建つことにな
ります。

新校舎は3棟で、南北に西棟(地
下1階、地上6階)、そこから東側に
伸びる形で南棟(地下2階、地上5階)
と北棟(地上3階)がF字型に建ちま
す。建築面積は1万7754平方mで
す。



南棟屋上のルーフテラス。
ソーラー発電パネル等が設置され、エコ学習スペースとなる



南棟(左)と北棟(右)の間の中庭。正面は西棟。
突き当たりの階段の踊り場は、野外ステージとしても使える



北棟から中庭を見下ろす。
カラフルなタイルが目を引く。
奥は体育館



正門から中央棟、その奥に西棟を臨む。
正門から校舎へのアプローチはすでに完成している



新・星が丘キャンパスの完成イメージ。
北側には平和公園の豊かな緑が広がる

新・星が丘キャンパス 工事スケジュール

- 2004** 7月 旧大学校舎・中学体育館の解体開始
11月 中学・高校校舎建築工事開始
- 2006** 2月 中学・高校新校舎の完成
4月 中学・高校とも新校舎で授業を開始
旧中学・高校校舎の解体とグラウンド移設工事開始
- 2007** 2月 新グラウンド・中学体育館等の完成

人と自然が調和する 美しいキャンパス

星が丘キャンパスの設計テーマは、人と環境に優しい、美しい未来型キャンパス。キャンパス北側に広がる広大な平和公園は、名古屋でも屈指の緑豊かなエリア。そこから連なる丘陵地帯の地形を生かしながら、人と自然の調和を目指した学びのステージが誕生します。長い間、生徒たちを見守ってきた敷地内の樹木はできる限り残り、愛知淑徳の歴史を継承しながら、自然との調和を大切にしていきます。校舎屋上には太陽光発電パネルを設置し、自然エネルギーを一般電力として実際に活用するほか、エコロイ・環境教育にも使用します。

星が丘キャンパスの設計テーマは、人と環境に優しい、美しい未来型キャンパス。キャンパス北側に広がる広大な平和公園は、名古屋でも屈指の緑豊かなエリア。そこから連なる丘陵地帯の地形を生かしながら、人と自然の調和を目指した学びのステージが誕生します。長い間、生徒たちを見守ってきた敷地内の樹木はできる限り残り、愛知淑徳の歴史を継承しながら、自然との調和を大切にしていきます。校舎屋上には太陽光発電パネルを設置し、自然エネルギーを一般電力として実際に活用するほか、エコロイ・環境教育にも使用します。

星が丘キャンパスの設計テーマは、人と環境に優しい、美しい未来型キャンパス。キャンパス北側に広がる広大な平和公園は、名古屋でも屈指の緑豊かなエリア。そこから連なる丘陵地帯の地形を生かしながら、人と自然の調和を目指した学びのステージが誕生します。長い間、生徒たちを見守ってきた敷地内の樹木はできる限り残り、愛知淑徳の歴史を継承しながら、自然との調和を大切にしていきます。校舎屋上には太陽光発電パネルを設置し、自然エネルギーを一般電力として実際に活用するほか、エコロイ・環境教育にも使用します。

在校生の教育環境を 第一に確保

中学・高校の新校舎建設は今年6月から始まり、竣工は2006年2月。その後、新グラウンドの造成が行われ、中学・高校ゾーンの全ての工事が完成するのは翌2007年2月と、3年近い長丁場になります。

工事期間中は在校生の教育環境の確保に力を入れ、防音壁を設置し、騒音が出る工事はできるだけ休業期間中に行うなど、授業やクラブ活動に支障を来さないよう配慮して進められます。

2006年、 中高新校舎が 完成

新・星が丘キャンパス

100周年
記念事業

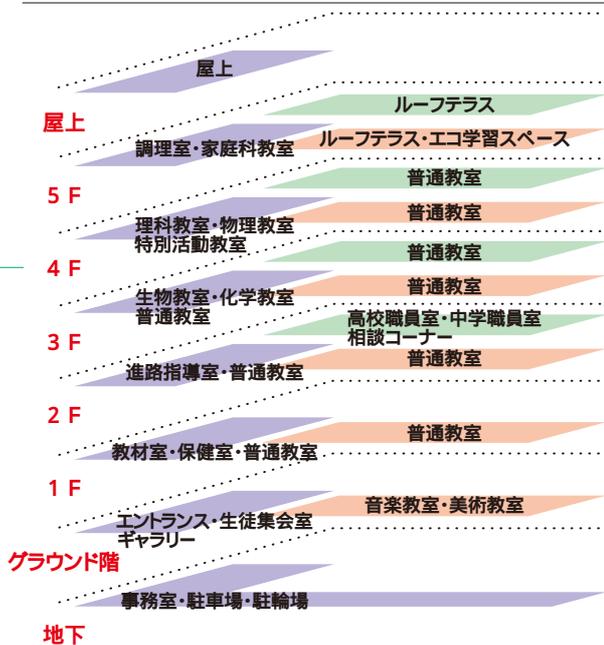


明るくて広々としたエントランス。壁が回転すると生徒集会室が現れる。右手奥はギャラリー

中高新校舎配置図



フロアガイド



明るい光に満ちた教室。大きくて使いやすい机で、生徒の学ぶ意欲を応援する



教室の模型。背面にはロッカーと洗面台を設置。教室の廊下にはベンチが

新校舎の特徴は、第1に生徒にとって居住環境のよい理想的な学びの場であること、第2に語学やコンピュータなどの新しい教育に対応した特別教室が充実していること、第3に中高一貫教育を具現化するのに適した教育施設であるということです。

居住性にすぐれた学習環境

居住性については、生徒の身体感覚に合う居心地のよい場所にすることを目的に、女性の建築士を加えその意見を大きく取り入れた設計となっています。

まず、広いエントランスは開放的な構造となっています。回転式の壁を開めると、300人余を収容できる生徒集会室となり、講演やミニコンサートなど多目的に使えるホールになります。

その奥にはギャラリーが設けられ、生徒の作品の展示スペースになります。普通教室は主に南棟・北棟に入ります。明るく広々とした教室には、従来より一回り大きな机と椅子を置き、伸び伸びと学べる環境となります。教壇は設けなかったため床面はフラットで、ここでもバリアフリーを実現しています。

各教室にはスクリーンを設け、テレビやパソコンなど幅広い利用ができるようにします。また、教室の背面には人数分の収納棚のあるロッカールームと洗面台を設置。廊下にはベンチを用意し、授業の合間には生徒の憩いのスペースとなることでしょう。

新しい学習に対応した特別教室

特別教室は主に西棟に入ります。新校舎は特別教室が充実しているのが大きな特徴です。

5階には調理室2室と家庭科教室が。調理室は2クラス同時に使うことができるほか、2教室の中央に試食スペースを設け、調理台とは別のテーブルで試食することができます。家庭科教室は被服授業のためのミシンを設置するほか、染色にも対応できるようにになります。

理科教室は中高合わせて3・4階に5教室用意されます。それぞれ中学の第1・第2理科、物理、生物、化学と科目に応じて使われます。物理教室は階段教室になります。

充実した最新の施設と居心地の良い学校



愛知淑徳高等学校・中学校
石川紘介学監

「伝統は立ち止まらない」これは創立百周年を迎えた愛知淑徳学園のコンセプトです。中学・高校の新校舎も百年の歴史と伝統の上に、21世紀の新しい教育の場にふさわしい「充実した最新の施設と居心地の良い学校」を目指して、建築中です。

本校は、中高一貫教育体制の学校であり、今後、この体制をより一層強めることを目指し、新校舎も中高が有機的に一体化した構造とします。

さらに、施設・設備は、21世紀の新しい教育に対応した斬新なものにします。それ故、英語・情報関係、環境教育は勿論のこと、理科・芸術・家庭科教室も最新なものとし、本校が目指す「21世紀の社会の各分野で活躍する女性の育成」の場にふさわしいものとしています。

もう一つ、新校舎の建設で重視したことは、居心地の良い学校ということです。従来の学校はややもすると機能が第一とされ、生徒にとっては、必ずしも快適な場所ではなかったといわれます。普通教室は従来と同じく個人ロッカー・洗面コーナーを設置し、教室・机もひと回り大きくしています。新校舎の延べ床面積は、大学から移管する清明館等を加えると2万㎡という広さであり、300席余の食堂や生徒集会室等のゆったりした施設が整備されます。トイレも快適で明るいものにします。教員室の両サイドにラウンジを設け、生徒と教員の交流の場とするなど、教育内容と結びついた生徒にとって居心地の良い学校にしたいと考えています。



生徒と教員の交流がしやすい開放的な職員室



職員室の隣に設けられる相談コーナー。
生徒が教師に気軽に相談できるほか、個別学習にも取り組める



中庭に面した床まであるガラス窓は、明るい自然光を導く。
教室の外には生徒がくつろげるベンチを設置

音楽室は南棟のグラウンド階に2教室入ります。広い第一音楽室のフロアは三段になっており、楽器演奏に適した構造になっています。

特別教室は大学の施設だった清明館にも入ります。中高の施設として改修し、1階は300人の座席を持つ食堂、2階はパソコン教室やL.L.教室を配したメディアラウンジ、3階は6万冊の蔵書を擁する新しい図書館として生まれ変わります。

白梅館は面談室、書道教室、学園資料室、生徒が合宿もできる作法室などが入ります。

友輪館は、1階がクラブ室、生徒会室、2階が集会室として使われます。

また、教師と生徒のコミュニケーションを密に図るため、職員室の東西に相談コーナー2室と、同じフロアに進路指導室を設けます。共に1教室半ほどの広い面積を取っており、教師と生徒が1対1で学習や進路について話せるほか、生徒が個別学習するスペースも設けられます。

中高一貫教育を実現する 学びのステーション

中高一貫教育については現在、検討段階にあり、新校舎と同時に教育内容も一新する予定です。この一貫教育を前提として、北棟2階の職員室は中高の教師が共に使用することとなっております。